

# 老婆心ながら

～校長からの一言～

## いじめのない学校を創る（２） ～学校教育や親の言葉や行動がいじめを生み出す～

新型コロナウイルスの蔓延に伴い感染者や医療従事者などへの差別やいじめが増えているという報道を聞くことがあります。また、10年前に起きた東日本大震災の際には、原子力発電所から放射能の漏れたことによる福島県在住者や福島県からの移住者に対する差別やいじめが大きな問題になりました。どちらも決して子ども達の世界だけで起きていることではなく、「大人の社会」でも起きていることであることは皆さんも認識していることだと思います。

さて、これを読んでくださっている皆さんはどうでしょうか。日頃の子どもとの会話や行動の中で、必要以上にコロナウイルス感染や放射能について必要以上に警戒心を煽ったり、排除するような言動や行動をとっていないでしょうか。子どもは、その言葉を聞き、またその行動を見ています。そして、最も身近で最も長く一緒に生活している親の言うことややることを、知らず知らずに学び真似をするのです。もし、心当たりがある方がいたならば、今からでもよいので気を付けていってください。

私が子どもの頃、私の親たちは外国の方に対し、あまり良い感情を持っていなかったように感じます。でもそれは、太平洋戦争中に「他国は敵だ」という教育を受けてしまっているのが仕方ないことなのかもしれません。それでも私も、その親たちの感情を感じとり、何となく外国の方を遠ざけてしまうようなことが子どもの頃にはあったように感じます。学校教育が子どもに影響を与え、その子どもが親になり、またその子どもに影響を与える。まさしく「負のスパイラル」がそこにあったのです。

でも、今は違います。さまざまな情報から正しい判断をすることができるようになっていると思います。悪い歴史は繰り返さぬよう、まず大人たちが正しい行動をとっていきましょう。